

## 平成29年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績の抜粋

区	センター名	高齢者人口	高齢化率	
中央区	新千葉	9,380	24.08%	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当圏域に於ける通いの場等住民主体のサービスが十分確保されているとは言えない状況であり、今後生活支援コーディネーターと連携し資源の把握や発掘等に努める必要がある。</li> <li>介護予防、特に認知症への意識は高い印象で、依頼も多かった。毎年依頼を下さる地区に対しては、内容の変更も検討が必要。また、自主的な介護予防活動に向けた取り組みが必要だと考える。</li> </ul>
	中央	8,238	18.97%	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区部会、老人会、自治会などと連携し、アンケートをとったり話し合いを重ねることで地域のニーズを把握しながら、教室を開催することができた。</li> <li>今後は、健康課や社協等の関係機関と情報交換をしたり、地域の方々との連携をとりながら自主的な活動に移行できるように働きかけていく。</li> <li>高齢者虐待が疑われるような相談には、区の担当者との連携して対応にあたることができた。また、事実確認を行う際に情報収集の漏れが無いように社会福祉士会のチェックシートを活用することが出来た。</li> </ul>
	千葉寺	7,225	22.57%	<ul style="list-style-type: none"> <li>千葉寺・青葉町町内会域における、支え合い活動立ち上げに伴う会議に出席した。隣接する地域でも支え合い活動について興味があるという声があり、取り組み状況についての情報提供を行ない、活動への取り組みのための種まきを行なった。</li> <li>センター主催で地域住民に向けてウォーキング企画を2回開催した。当初は、年3回の開催を想定していたが、職員の入退職、総合相談対応の増加等により、年2回の開催にとどまった。ただ、2回の開催を通じ、地域住民に向けて介護予防の楽しさや地域での取り組みについて情報発信を行なうことが出来た。また、参加者同士がコミュニケーションを図れるような機会を設け、地域間での介護予防活動の情報共有が行えた。</li> </ul>
	松ヶ丘	15,776	23.46%	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種連携会議は中央区全体で1回、圏域内で1回実施。地域住民も参加して頂き、専門職以外から意見も聞くことができ、より地域状況に沿った多職種連携会議を開催する事ができた。</li> <li>担当圏域が広がり、社協主催のいきいきサロン、中央区保健センターとの共催による健康イベント、ふるさと祭り参加でのあんしんケアセンターの周知、24時間薬局モデル事業に参加したことによる介護相談や薬についてのミニ講座の開催など、多様な連携を行いながら多方面での周知活動を行う事が出来た。</li> </ul>
	浜野	6,129	25.37%	<ul style="list-style-type: none"> <li>民生委員の困りごとアンケート調査の結果を地域ケア会議にて共有した。生浜地区部会と連携し、地域課題の把握・共有のための勉強会を実施したことで、生浜地区における地域課題を明確にすることが出来た。また、その課題についても町内自治会や民生委員、地域住民にも情報発信、共有しているところであり、地域包括ケアの大きな一歩であると評価している。</li> <li>サロン活動を行うことで、センターに気軽に立ち寄っていただけるようになり、センターの周知にも繋がっている。また、地域課題にも挙がっている「気軽に立ち寄れる居場所作り」としても役割を担うことができた。</li> </ul>
花見川区	こてはし台	6,605	35.22%	<ul style="list-style-type: none"> <li>シニアリーダー連絡会にも毎回参加し、新規教室の立上げ時の支援や地域に教室の案内をするなど、協力体制が維持できた。今後は会場の確保などシニアリーダー以外にも生活支援コーディネーターも協力しながら、活動が手薄な地域へ対応していく必要があると判断した。</li> <li>前期は相談件数の少ない地域に対して、自治会長宅訪問や回覧等で、あんしんの普及啓発を図った。目に見える相談件数の増加には繋がらなかったものの、自治会との関係づくりには意味がある活動であったと判断した。来期は対象地域すべての自治会を回ることにした。</li> </ul>
	花見川	12,050	35.70%	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、センター事務所を特別養護老人ホーム晴山苑の施設内から地域の花見川団地商店街内に移転した。その効果として、花見川団地住人は利便性が良くなり、団地住人からの相談件数の増加、特に来所の対応件数が伸びている。約3,800件の対応の半数は団地住人で、新規対応も前年度より600件近く増えているため、より身近な相談窓口としての効果がみられた。</li> <li>相談内容について、複数の課題が混在するケースも多くなっているため、複数職員で対応できるよう、申し送りやケースカンファレンスをし情報共有や対応方針がずれないようにしてきた。解決に至るまで時間を要するケースも多いため、今後現在の体制を継続していく必要があると判断した。</li> </ul>
	さつきが丘	6,764	31.42%	<ul style="list-style-type: none"> <li>あんしんケアセンター周知活動に重点を置いて、既存の活動団体や老人会に参加し、活動内容の情報収集等、把握も合わせて行うことが出来た。犢橋南部地域など把握しきれていない地域もあり今後の課題としたい。</li> <li>シニアリーダーの自発的な意欲を支えながら、地域に根差したものとしていけるよう、あんしんケアセンターとして協力体制を示す必要がある。</li> </ul>
	にれの木台	5,698	32.53%	<ul style="list-style-type: none"> <li>民生委員、自治会及び社協地区部会等の関係機関との連携で、支援を必要とする独居で認知症の高齢者の早期把握ができ、迅速に適切なサービスに繋いだ。今後もより連携を強化していく。</li> <li>前期においては、新設センターとして利用者の把握及び介護予防・日常生活支援において十分な支援ができなかったことから、後期においては、住民主体の健康活動を積極的にを行い環境づくりを進める。</li> </ul>
	花園	7,038	21.44%	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民や居宅支援事業所等から寄せられる相談について、虐待を見落とすことがないよう三職種で情報を共有しながら対応したことは、課題の抽出ならびに課題解決に向けての動きをスムーズにするうえで有効であった。</li> <li>担当圏域の変更に伴い、担当地域がコンパクトになり、地域の既存組織への参加も容易となる中で、「元気で長生きしよう会」を花園地域ばかりでなく、検見川地域でも複数回開催することができた。開催するにあたり、関係機関への協力を依頼することにより、健康課や生活支援コーディネーターとの協力、支援を受け継続し取り組むことができた。</li> </ul>
	幕張	9,402	18.01%	<ul style="list-style-type: none"> <li>民生委員児童委員と個別事例を通じた地域ケア会議開催を目標としていたが、日々の業務の中でその都度ケース検討を主とした協議や連携で解決できていた為、地域ケア会議までには至らなかった。この間の連携を通じ、民生委員児童委員の方々も多忙な為定例会以外の日に改めて集まる事が容易でない状況を理解できた為、今後の連携の持ち方が課題となった。</li> <li>圏域内の医療機関との連携は個々の利用者を通じての連携に留まってしまい、圏域内の多職種との顔の見える連携・ネットワークづくりへは進展できなかった。クリニックや在宅診療専門医との地域内での多職種とのネットワークづくりが今後の課題となった。</li> </ul>
稲毛区	山王	14,062	28.59%	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護予防を目的とした体操教室など、住民主体の通いの場作りの支援をシニアリーダーや関係機関と連携して行うことが出来た。30年度より介護予防に重点を置いたサロンの開催を目指しているグループと協働し、参加者への意識付けや内容についての意見交換などを行った。</li> <li>宮野木出張所ができたことで、自治会の集まりへの参加や、回覧板にてパンフレットを回してもらうなどの周知活動を行うことが出来た。</li> </ul>
	園生	6,430	25.95%	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種連携会議は、今年度より区内の圏域を分けて行った。より顔の見える関係を構築しやすくなったが、会議の内容などは反省もあるため、来年度はそういった反省点を活かしながら実施していきたい。</li> <li>シニアリーダー体操教室に全て関わりを持つことができたのは、シニアリーダー連絡会への参加や区健康課等との連携が大きいと考えているため、今後も継続して関わっていきたい。</li> </ul>
	天台	5,387	28.91%	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護予防教室を開催することで、コミュニティーの場が増え、仲間づくりや健康意識を高める効果があり、地域の口コミにより情報の広まりが早くかつ効果的な介護予防の推進になることを実感した。</li> <li>認知症サポーター養成講座は、中学生向けについては予定通り実施できたが、住民向けに関しては案内のみにとどまっており、今年度は開催には至っておらず、必要性を理解していただき認知症サポーター養成講座を開催していく。</li> </ul>
	小仲台	7,467	22.56%	<ul style="list-style-type: none"> <li>稲毛区初の徘徊模擬訓練を実施し、地域住民の認知症の方への支援の意識向上へとつながり、今後も訓練等を継続していきたいという意見も聞くことができた。訓練後の会議の開催も好評だった。</li> <li>徘徊模擬訓練後の地域ケア会議は、住民らと認知症に焦点化した意見交換の場となり、有意義だった。</li> </ul>
	稲毛	6,515	20.34%	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の地域ケア会議をより有効に活用するためには、どれだけの関係者の協力が得られるかにもよるため、生活圏内にある個人経営の商店や配送・配達業者との関係性を築くことで、次年度は個別のケースを通じて更に地域の見守り役となる方へのアプローチも強化したい。</li> <li>住民主体の活動の場として、シニアリーダーによる体操教室が稲毛自治会館、京成サンコーポの2カ所で新たに立ち上がった。自治会や民生委員の協力のもと介護や介護予防給付者や元気高齢者の参加があり、地域の活性化に繋がった。今後運営や活動継続に向けた問題など適宜後方支援しながら、活動の場が効果的に実施できるよう支援を行う。</li> </ul>

若葉区	みつわ台	7,327	23.93%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議を通して地域の自治会や民生委員及び住民の方々との連携を深め、総合相談の分析等で地域の課題を把握し、今後の支援に活用することができた。</li> <li>・若葉区支援コーディネーターや自治会、民生委員、ボランティア等に積極的に交流し、情報収集に努めた。</li> </ul>
	都賀	9,174	27.35%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターの立ち上げと総合事業の開始が重なり、またケアマネジメントCや短期リハビリ型通所といった新しいサービスが始まり、利用者に社会資源や新しい制度を結びつける事だけで精一杯であった。</li> <li>・地域のネットワークを構築する為に多職種連携会議や民生委員会、ソーシャルワーカー連絡会に参加して少しずつ連携が取れるようになってきている。</li> </ul>
	桜木	8,162	25.88%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待に関して相談件数は増加傾向ではあるが、介入が難しいケースが多く、行政と相談しながら対応する必要がある。</li> <li>・警察署からの相談も多く、警察で保護したがその後の対応をどうするか緊急の相談が多く、対応が難しかった。</li> </ul>
	千城台	12,354	33.69%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より保健師が2名増員し、個別支援の過程で医療職と意見交換や同行訪問を行える機会が増えたことで、顕在化したニーズだけでなく、潜在化していたニーズを医療・介護両面から迅速に判断することができ、適切なサービスや関係機関の選別を行い繋げられるようになっている。</li> <li>・地域ニーズの把握は、一部地域でケア会議を開催した際に実状を把握したが、他は相談支援業務等における個別的な把握に留まっており、実際の地域住民の個々のニーズ把握から、地域の全体的なニーズとして把握できるような働きかけが行えていないため、今後に向けて把握方法を検討し、地域と共有していきたい。</li> </ul>
	大宮台	7,816	44.91%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニアリーダー講座修了者による自主グループは5箇所に加え、少しずつではあるが地域に定着しつつある。参加者は健康意識が上がり、好評だった。</li> <li>・昨年度、大宮地区での取り組みが少なかったため、民生委員や自治会役員に向けた説明会を開催したり、一般高齢者向けに講演会を開催したり、積極的に取り組んだ。大宮いきいきセンターの生きがい活動支援通所事業の参加者に対する講演会(教養講座)も、今年度は開催することができた。</li> </ul>
緑区	鎌取	9,106	15.05%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の問題点を把握し、そこから地域に何が必要であるかをアセスメントし、実施可能な具体的方法を自治会長や民生委員、関連する専門職などと考えていく必要がある。また昨年と比較すると介護予防に関する講演会やミニ講座の開催を望む声が増えた。地域住民の介護予防に対する関心の高まりと考えられるがその都度対応した結果、介入について地域差が生じる結果となった。次年度以降の課題として、他の地域でも介護予防に関する啓発を積極的に行ってきたい。</li> </ul>
	誉田	6,092	27.06%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでになく困難なケースへの対応を、住宅管理会社やスーパーなど多機関のチームで対応することができたことは良かったのではないかと。</li> <li>・住民主体の活動の場を増やしていくことを目指しているが、この地域で新しく活動の場を作っていくことは、なかなか難しいと思われる。自治会・老人会・サロン等の活動を、より活発にしていく支援を地道に行っていくことが必要だと思われる。</li> </ul>
	土気	11,981	26.41%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニアリーダー教室は土気地区で5か所開催。うち一か所はサービス付き高齢者住宅の食堂での開催が開始した。入居中の方のみではなく、近隣の住民も参加できる形で施設を利用。こういった取り組みは土気地区では初めてであるため、今後の参考にしていきたい。</li> <li>・高齢者虐待に関する相談に対し、区高齢障害支援課担当者と連携し情報収集及び事実確認の為に訪問、個別ケース会議を実施し、対応方法を検討し対応を行った。緊急性が高く、保護分離が必要と判断したケースについては一時保護し、高齢者の安全を確保したケースもあった。対応の中で保護の判断が遅くなってしまったケースもあり、緊急性の判断を行うための根拠となる事実の確認を丁寧に行っていく必要がある。</li> </ul>
美浜区	真砂	7,630	30.69%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域の郵便局2局へ働きかけ、窓口に来られた高齢者へのあんしんケアセンターの周知（パンフレット常設）及び心配な方を通報して頂く等の協力関係を作ることができた。</li> <li>・住民関連においても自治会や民生委員の組織とのつながりは薄く、あんしんケアセンターから積極的な関りを持っていない。住民組織との連携を深める為、今年度2月から新たに「真砂地区地域運営委員会」へ委員として定期的に参加し、地域の課題把握、取り組みについて理解、協働を進める。また地域の社会資源ネットワーク構築を推進するためのテーマ、素材として地域の社会資源マップの作成を次年度の取り組みとしたい。あんしんケアセンター単体で作成するのではなく、圏域の居宅介護支援事業所(有料老人ホームのCM含む)、介護サービス事業者、医療機関から委員を募り、マップ作成委員会を立ち上げ、作成の過程がネットワークの構築に繋がる取り組みに繋げたい。</li> </ul>
	磯辺	11,968	20.83%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民児協やサロン、体操教室に定期的に参加することができた事で、顔の見える関係作りが構築され、相談ルートの拡充が出来ている。また、依頼された講座はなるべく受けられるよう配慮した事で、センターの周知も進んでいると思われる。</li> <li>・打瀬地区部会での講座(介護保険・認知症・運動をテーマ)を実施した事で、繋がりが強くなった。社協から情報が頂けるようになり、幕張西地区の見守り活動への協力をどのような形で行っていくかは来年度の取り組みとして検討をしている。</li> </ul>
	高洲	12,103	26.24%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会資源、住民型のサービスの活用という面では成果をあげているものの、支え合い型のサービスや短期リハサービスはつながらなく今後の課題となりそうである。まずはどのような運営、特色といったものの把握から始めていきたい。介護保険サービス同様、その方のアセスメントに応じた対応を目指していく。</li> <li>・地域包括としての業務を多く抱えている中で、自センター主体の活動が難しく、他の業務に影響している。来年度においては業務の改善を話し合っており、本来の目的である自主的な活動に切り替え、見守りを行っていききたいと思う。現在行っているものをどう代替えていくか参加者とは話し合い、既存しているサロン、教室を周知していく方向で行く予定である。</li> </ul>
	幸町	5,695	28.32%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居、高齢者世帯で親族不在の方などの支援が増えており、対応に支障が出ている。地域組織と緊急時の連絡体制などを整えていく必要がある。</li> <li>・「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指し、認知症サポーター養成講座を開催。自助力、共助力の強化を図った。</li> <li>・閉じこもりや社会参加の少ない高齢者、生きがいをなくしている方へのアプローチ方法を検討したが、支援が困難。</li> </ul>

※高齢者人口及び高齢化率は平成29年6月30日現在